

白い森の休憩所

ふわっとした時間

歴史の森へ入る前に、日常の時間の流れをゆっくりに変えていく

デフォルメされた自然の形

建築の創る「自然」

自然の中にはない「自然」

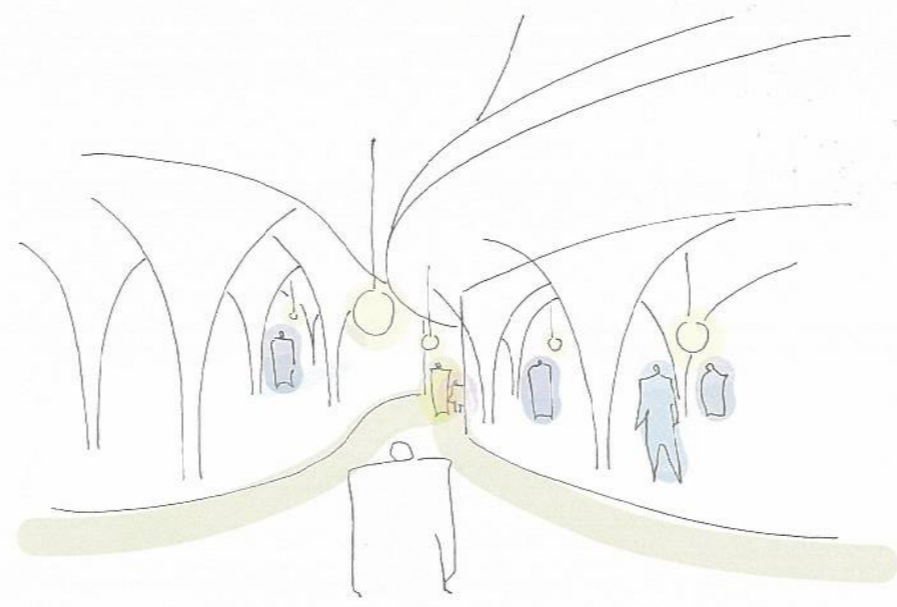
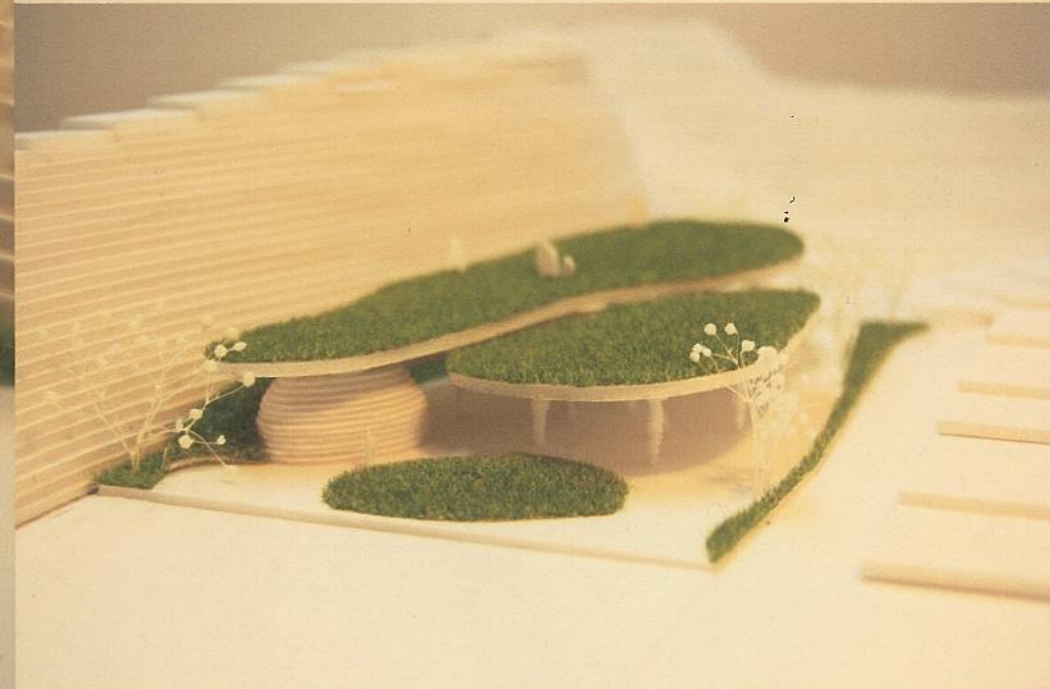
その幻想的な空間の中で、「時間」を感じてほしい

歴史が眠る森

その森の妖精までもがやってくる

そんな物語のある休憩所

物語によって、歴史は語り継がれる



(1) 景観への配慮

- ・建物の分節化、屋上緑化、敷地周囲の緑化など、後ろの森の風景に「溶かし」ていく。また、屋上緑化することで、山の上から見ても、公園の緑と一体化していく。
- ・この公園の主役である歴史遺産を、引き立たせるように、素材感に配慮する。

(2) 公園のシンボルとしての役割

- ・森の木々の間を抜けていき、木の下で休むような休憩所。また、日常と歴史の森を繋ぐ、柔らかな建築を目指す。
- ・森のモニュメントのような建築。

(3) ユニバーサルデザインへの配慮

- ・外部と内部の境界線を薄くすることで、園路、通路、施設内と連続的に行き来できるようにする。
- ・いろんな場所にベンチを配置し、あらゆる人が、各々好きな場所で休憩できるようにする。
- ・施設全体を有機的なデザインとする。

(4) 歴史学習ゾーンとしての役割

- ・歴史学習ゾーンで体験しながら学習できるように、児童生徒へのレクチャーやレクリエーション、ワークショップなど多目的に使用できるように、内部展示室から外部へと開放、一体的に使用できるようにする。
- ・地域の人が集える「町の休憩所」の役割を持つことで、「生活の歴史」も学習できる場としたい。
- ・大人たちだけでなく、子どもたちも気軽に立ち寄り、自然に歴史とふれあえる場とするため、開かれた休憩所を目指す。

(5) 2号園路へのアプローチ

- ・駐車場から歴史の森へ、ゆるやかに建物中央を抜けていく。また、中央を通ることで、管理事務所・多目的室へも、スムーズに入れるようにする。

(6) 維持管理への配慮

- ・建物をスケルトンとインフィルに分けて考え、RCで耐久的な屋根を造り、その下に可変性のある木の仕切りを入れる。
- ・また、大きく軒を出すことで、木の耐久性への影響を軽減させる。
- ・将来的には、施設全体の機能を変えて使うこともできる。

(7) 安全への配慮

- ・管理事務所から全体を見通せるように、島のように分離して配置し、仕切りの透明感を出すことで死角をできるだけなくす。

